令和３年度

ハートフルメッセージ

八代市教育サポートセンター
八代市ＰＴＡ連絡協議会

目 次

1	ありがたいけど･･･	P. 1
2	ありがとうのメッセージ	P. 1
3	ある日のこと。	P. 2
4	忙しい朝	P. 3
5	笑顔の指揮者賞	P. 3
6	お手紙	P. 4
7	大人げない先生	P. 4
8	かけ算九九	P. 5
9	今日の先生、なんだか・・・・。	P. 5
10	教務の先生	P. 5
11	「心が温かくなります」	P. 6
12	最後の体育大会にて	P. 6
13	昨年の間借り先の中学校での出来事、そしてその後の交流	P. 7
14	さりげない気配り	P. 8
15	３歳児とともに	P. 9
16	世界一幸せな教師	P.10
17	小さいけれど、大きな応援	P.11
18	『捕まえた虫を友達が逃がしてしまいました』	P.12
19	なんと！！	P.12
20	長い月日の中で	P.13
21	ねぇ	P.14
22	猫ふんじゃった	P.14
23	初めての遠足	P.14
24	ほのぼの	P.15
25	やさしさに包まれて	P.16
26	「ユウヤ」のユウは優しいのユウ	P.17
27	予想外！虫とりブーム！！	P.18
28	「れいさんが元気に来てくれるだけでいいんで！」	P.19
29	わくわくドキドキの運動会	P.20
30	私の宝物	P.20
31	私の宝物	P.21

※作品中に出てくる人の名前はすべて仮名です。

１　ありがたいけど･･･

以前、仕事でつかれて帰った時のこと
家に入ると、いいにおい･･･
さては、お姉ちゃんが作ってくれているのか？（気まぐれで･･･）
と思って玄関のドアを開けると、
むすこが、卵料理をしてくれていました。
台所は、卵が散乱
ありがたいけど　トホホ　な日でしたが、
めちゃくちゃ　おいしかったです。

２　ありがとうのメッセージ

３月のある日、６年生のよしお君は野球クラブの練習にいくため自転車をこいでいました。すると橋のたもとで倒れているおばあちゃんがいます。傍らには自転車も倒れています。おばあちゃんは苦しそうに見えました。

思わず「大丈夫ですか？」とよしお君が声をかけると、「風が強くて、自転車が倒れたつよ。立ち上がれんから、近くの知り合いのところまで行って呼んできてくれんね。」と頼まれました。「はい、わかりました。」と答え、自転車をこいで橋を渡ったところの家に行き、「〇〇さんが自転車から倒れて動けないそうです。すぐ来てください。」と伝えました。その方は、自動車ですぐに駆け付けてくれました。よしお君はおばあちゃんが自動車に乗せられていくのを見届けてから、野球クラブの練習に行きました。

そしてしばらく時が過ぎた４月のある日、よしお君を訪ねておばあちゃんの娘さんが中学校においでになりました。入院されているおばあちゃんの代わりにわざわざお礼を言うために中学校まで来られたのです。

直接お会いすることは出来ませんでしたが、よしお君の担任に「本当に助かりました。ありがとうと伝えてください。」とおっしゃったそうです。
知らない人に声をかけるのは勇気がいります。日頃から人との会話がうまくできるよしお君だったからためらわずに声をかけることができたのだろうと思います。

おばあちゃんからのお礼の言葉を伝えられたよしお君も、おばあちゃんのおかげで嬉しい気持ちになりました。

３　ある日のこと。

大きなイチョウが何本もそびえたつ古い神社で行われた写生大会。
お天気も良く、あちらこちらで強い日差しをものともせずに
生徒たちはデッサンの構図を考えながら動き回り、鉛筆を走らせる。
「そこは今描いている人の視界に入るでしょ？」「あ、ごめんなさい。」
そんなやりとりも、こんなのんびりした時間も久しぶりだ。

お弁当を食べて、いよいよ色を塗っていく。
「うおー！」「うわー！」「どうした？」「失敗しました！」
緑や黄色が広がる風景のはずなのに、そこには「鬼滅の刃」の
藤棚のような真紫が画面いっぱいに塗られている。
「反対の色をまず塗ってからって先生に言われたから。」
深みのある色を出すため、色は目に見えるその色だけを塗るのではなく、
真逆の色から塗っていくというのが、その先生の教え方だ。
しかし、まず薄く色を重ねていった方がいいのでは？　でも・・・、
学生時代に「あなたはデッサンはいいけど、色を塗るのがねえ・・・。」と
先生に酷評されたことが心の底に引っかかって、
絵を描くことは 大の苦手だから言えない。

ちょうどそのとき担当の先生が来られた。
「先生、僕の絵、こんなんなりました。」
「あらあら。そうなったんだね。じゃあ、こうしてみたら？」
「僕の絵も、なんか構図が」
「ああ。どこで描いてるの？・・・じゃあ、ここを思い切って・・・」
自分だったら何とアドバイスをしただろう。学生の時の先生のように
「あらー・・・もう・・・」と嘆いただけかもしれない。
まず受け止めて、それから、それよりもよくなる方法を
その子の技術を考えてアドバイスしているその先生を見ながら、
「先生が自分の時の美術の先生だったら、違っていたかもしれないな。」と、
思わずつぶやいた。
先生。
教師としての心構え「まず受け止めて、それからその子のことを考えて
アドバイスすること」を思い出させてくれてありがとう。
あなたは今の自分の恩師です。

４　忙しい朝（第五中）

朝は本当に忙しい。家事や仕事の段どりをしつつ、娘を学校へ送り出さなければならない。その中でも、欠かせない習慣がある。娘が登校する時、一緒に玄関を出て少しだけ会話をかわす。それから、「いってらっしゃい」と「いってきます」をして、娘の後ろ姿を見る。必ずといっていいほど、２～３ｍ歩いた娘は一度だけ私を振り返る。そのタイミングを見はからって、私はポーズをつけるのだ。大きく手をふってみたり、ハートマークをつくったり、片足あげてフラミンゴのポーズをしたりする。娘に少しでも明るい気持ちで登校して欲しい私なりのエールである。しかし、そんな私の努力もむなしく、娘はいつも無反応である。中学生ともなれば、「うざい母親」としか思ってないのだろう。

ところが、先日、娘がくすっと笑ったのが、マスクごしにもはっきりと分かった。うれしくてその日の夜、娘に聞いてみた。すると意外な返事があった。「いつもくすくす笑ってるよ。だってお母さんのポーズおかしいもん。今日は足あげてたでしょ。」なんと！知らないうちに私の作戦は大成功をおさめていたのだ。

明日はどんなポーズにしようか。母親業はなかなかに忙しい。

５　笑顔の指揮者賞

校内合唱コンクールで、あなたは自ら立候補してクラスの指揮者になりました。最初はうまくいかずに挫折しそうになりましたね。それでも練習を重ねていく中で、だんだんとリズムが取れるようになりました。ところが、安心していた矢先、なぜかあなたは指揮の途中で笑ってしまうようになってしまいました。みんなからは、歌いづらいと言われ、へこんでしまいました。それでも、あなたは毎日毎日練習を重ねました。

そして迎えた合唱コンクール当日。全体でも一番目の発表ということでとても緊張していましたね。そのような中、あなたが精一杯指揮をする姿に成長を感じました。

全てのクラスが歌い終わり、いよいよ結果の発表です。各賞の発表が進む中、指揮者賞は学校から唯一あなたが選ばれました。あなたの名前が呼ばれた瞬間のクラスの盛り上がりはすごかったですね。あなたのこれまでの頑張りをみんなもちゃんと理解していたのですね。その後、学校が終わるまでずっとずっと満面の笑みだったあなたはとても素敵でした。おめでとう。この貴重な経験が、きっとこれからのあなたの力になりますよ。これからもたくさんの笑顔を見せてくださいね。

６　お手紙

私は看護学校に通っています。今年で最後の学生生活で、現在実習の真っ只中です。７月の終わり頃から８月の中頃まで、自宅から車で約１時間かかる病院での実習があったとき、現地の集合時間が早かったため、毎朝６時すぎには自宅を出ていました。子どもたちはまだ寝ていることが多く、子どもたちの世話は夫に任せて、顔を合わせることのないまま家を出る日々が続きました。

そんなある日、机の上の長女（小２）からの手紙が置いてあり、「ママ、じっしゅうがんばってね！いつもおうえんしているよ！ママだいすき♡」と書かれていました。毎日起きたらママはもう居なくてさみしい思いをしているはずなのに、私のことを思ってくれる娘の優しさを感じ、とても愛おしくなりました。自分自身に余裕がない中でも、子どもたちと触れ合うことを忘れずにやっていこうと強く思わせてくれました。

７　大人げない先生

運動場で子供と並んでいる先生
「よ～し！」
先生の大きな声
「よ～い、ドン！」
子供も先生も全力で駆け出す
ゴール！
勝って満面の笑みを浮かべている先生
「大人げないな～先生！」
しかし、
走った子供、見ていた子供も満面の笑顔
大人げない先生もいいなぁ～

８　かけ算九九

本校の小学２年生は、現在「かけ算」の学習中です。毎日、かけ算九九の暗唱に取り組んでいます。暗唱してすらすらと言える子、表を見ながら九九を読み上げる子など様々です。

子どもたちは、担任以外の先生にも練習の成果を試すために、職員室へやってきます。本校は、小中で職員室を共有していますので、小学校の先生だけでなく、中学校の先生にも「〇〇先生、〇の段を言います。聞いてください。」とやってきます。先生方は、仕事の手を休め、快く聞いてくれています。聞き終わった後には、「すごい、すらすら言えたね。」「〇×〇をもう一度言ってみて。ＯＫ合格。」「読むのが速くなったね。」など、それぞれの子どもたちの頑張りを認め、優しく励ましてくれています。この時、子どもたちも先生方も笑顔です。

自分なりの練習の成果を精一杯試そうとする子どもの姿、それを受け止め励まそうとする職員の姿、そして、そこに自然と生まれる笑顔に、ほっとする温かさを感じています。

９　今日の先生、なんだか・・・・。

私たちの年代には、水泳の授業は、意欲が少し減退してしまいがちです。しかし、子供たちの命にかかわる授業ですから、もちろん水着に着替えて頑張っています。首から足先までの水着姿、それにゴム帽子。すると、一人の子が、「先生、今日の先生、なんだかきれい！」

「えーーーーっ！この姿なのに。」でも、やる気が出ました！

１０　教務の先生

「は～あ～」大きなため息
振り向くと教務の先生
「どうしたんですか？」
「行事に追われているんです・・・。」
教務の先生の仕事は、陰ながら学校を支える縁の下の力持ち
あなたの見えない努力で、学校がスムーズに機能し、
気持ちよく生活ができています
教務の先生のがんばりに感謝
教務の先生、ありがとうございます

１１　「心が温かくなります」

「先生、〇〇さん、今日は？」「お休み？」と、毎日、係の仕事（小黒板に帰りの行き先を貼る仕事）をしているみどりさん（仮名）。欠席の友達がいると必ず尋ねてきます。私が「はい、今日はお休みですよ。」と言うと、「えーっ。」「〇〇さん来ないと寂しい。つまんない。」「明日は来る？」とみどりさん。みどりさんはクラスの友達大好き。学校大好きで、私が「明日は来るよ。」と答えると、「やったあ！」「嬉しい。」「だってみんなそろうと楽しいもん。」と喜ぶみどりさん。

そんなみどりさんは、私たち教師が出張等で不在の時も「〇〇先生、お休み？」「えーっ、寂しい。」「明日は来る？」とクラスの友達が休みの時と同じことを話してくれます。

また、ちょっとした失敗やうっかり忘れていたことなどがあった時には、友達や先生に「〇〇さんったらあ。」「〇〇先生ったらあ。」ととがめるのではなく優しく声かけするみどりさん。

そんなほっこりとする優しい思いやりのあるみどりさんの一言に、いつも癒やされ、心が温かくなります。

１２　最後の体育大会にて

コロナ禍の中、本校では今年度も午前中での体育大会開催になった。短い準備時間であったが、快晴の空の下、３年生が中心となって下級生を引っ張り、本当に素晴らしい大会を創りあげてくれた。男子のダンス、女子の地域に伝わる踊り、各団の応援と感動で涙が出るほどだった。

勝敗も決し、閉会式も終わりになったとき、突然責任者のＹ君が壇上に立ち、「僕たち３年生にとって、今日は、中学生最後の体育大会でした。でも、もう一人最後の体育大会を迎えた人がいます。」と叫び、「教頭先生、前に来てください！」と突然指名された。私は壇上に上がらされ、Ｙ君から大きな手作りの金メダルをかけてもらった。

何かコメントをしてくださいと促され、こんなサプライズに鼻がぐすぐすになりながら、感謝の気持ちを言わせてもらった。

やんちゃな子どももいて、叱ったり、なだめたりすることもあるけれど、暑い中にじっと私の言葉をにこにこして聞いてくれて、子どもたちが可愛くてたまらなかった。ああ、先生って、子どもから力をもらえるありがたい仕事だなあ。この中学校で教員生活最後を迎えられて本当に幸せだなあと思った。

今、合唱コンクールに向かってみんな一生懸命練習している。各学年学校中に歌声が響き渡っている。練習をよくのぞきに行くが、目をきらきらさせて練習をしている。その姿に力をもらいながら、私の、子どもが可愛いという気持ちもずっと続いている。

１３　昨年の間借り先の中学校での出来事、そしてその後の交流

令和２年７月豪雨災害の影響で、本校は令和２年８月から１２月中旬まで本校生徒と教職員は授業や学校行事、事務整理を近隣にある中学校の一部施設を間借りして行っていました。

その間、本校の生徒は、間借り先の中学校の生徒と様々な交流活動を通じて次第に親しくなっていきました。

合同体育・文化祭と学習成果発表会の参観・ボランテイア活動・１年生同士のキックベース等の活動は、現在でも充実した思い出になっていることでしょう。

自分自身も間借り先の中学校の生徒と昼休み時間にバスケットボールやバレーボールをしたり、放課後には野球部の練習に参加させてもらったりと、不便な状況は多少はありましたが、楽しい毎日を過ごしていました。

その後国道２１９号線の復旧がすすみ、昨年１２月１１日が間借り先の中学校での生活が最終日となりました。

本校の生徒・教職員にとっては自分たちの校舎に戻れる嬉しい日になると同時に、せっかく親しくなれた間借り先の中学校にお別れしなくてはならない寂しい日でもありました。

お別れの会が終わった後も、一緒に記念撮影したり昼休みに球技を楽しんでいる姿がとても印象的だったことをはっきり覚えています。

「間借り期間終了と同時に今まで築いたつながりを無くしたくない」と、両中学校の生徒・教職員の共通した思いがずっとあります。

寒中見舞いやビデオレター等のやりとりは、数回ありましたが新型コロナウイルス感染症の影響もあり、直接会って活動する機会には恵まれていませんでした。

新型コロナウイルス感染症の状況も落ち着き、本校から１１月に間借り先の中学校へ出向き文化祭観覧とお互いの全校合唱の披露、また１２月には合同駅伝大会も開催される予定です。

こうした交流活動を通して、中学校卒業後もこれまで以上に友情が今まで以上に友情が深まることをずっと願っています。

１４　さりげない気配り

令和２年度の７月豪雨のため、坂本中学校は、日奈久中学校に避難してこられ、半年弱の間、共に同じ校舎の中で時を過ごした。この縁を大切にしたいと、令和３年度の日奈久中学校の文化祭に、坂本中学校を招待する計画を立てた。坂本中学校の先生方も生徒たちも承諾してくれて、昨年に引き続き関係を築けたことはうれしかった。そして、坂本中学校のみなさんが、合唱を披露してくれるということも楽しみだった。

しかし、それよりうれしかったことが起きた。それは、体育館で文化祭の準備をしているときだった。生徒が座る折りたたみ椅子を日奈久中学校、坂本中学校の順で並べていた。すると新しい椅子が足りなく、坂本中学校の椅子が古いものになった。すると、どこからともなく、「日奈久中学校が古い椅子に座り、坂本中学校に新しい椅子に座ってもらおう。」という声が出た。それを聞いた周りの生徒たちはすぐに新しい椅子と古い椅子を入れ替え始めた。自然と出た言葉や行動がうれしくてたまらなかった。普段から、優しい子どもたちを育てたいと思っているが、そう簡単なことではない。しかし、優しい子どもたちが育っている光景を目の当たりにし、胸が熱くなった。これからも「目配り・気配り・思いやり」ができる優しい生徒を育成していきたい。

ちなみに、この文化祭の翌月には、日奈久中・坂本中合同駅伝大会も計画している。お互いがよい刺激を受け、共に成長できる WINWIN 関係がこれからも続けばと思っているところである。

１５　３歳児とともに

今年度、年少組を担任しています。毎日元気いっぱい、幼稚園大好きの子供たちです。毎日のように心温まるエピソードがあり、その一部を紹介したいと思います。

☆初めての運動会

先日、子供たちにとって幼稚園初めての運動会がありました。夏のような日差しの下、かけっこやダンスなど、終始笑顔で取り組む子供たちの姿がありました。無事に運動会が終わると、私は保育室の黒板に大きな花マルを描いて、「みんな、よく頑張ったね！」と一人一人に渡すジェスチャーをしました。すると子供たちが「先生もよく頑張りました。花マルどうぞ！」と私に渡す真似をしてくれました。気持ちがふっと軽くなり、疲れが吹き飛んだ瞬間でした。

☆「私たちも見てるよ。」

運動会が終わった後、絵を描きました。ある女の子が「汗をかいている先生たちだよ」と顔に汗をかいている私と保育支援員の先生を描いてくれていました。私が子供たちのことをよく見ようとしているように、子供たちもよく見ているんだなぁと思う嬉しい１枚でした。

☆「先生に、好き好きってしていいの？」

２学期から転入してきたＡ君。人懐っこく、幼稚園にもすぐに慣れ、「あのね、あのね･･･」と話すことが大好きな男の子です。

10 月のある日、Ａ君が登園したときのことです。Ａ君を迎えた私の膝の上や背中には、先に登園した子供たちがぴったりと寄り添っていました。それを見たＡ君は「先生に、好き好きってしていいの？」と尋ねてきました。お母さんが「前の園では、あまりできなかったみたいで･･･」と言われました。私は、「もちろんいいよ！」と手を広げました。すると、満面の笑みを浮かべたＡ君が、私がひっくり返らんばかりの勢いで「好き好き～」と抱きついてきました。

幼稚園にも私にも慣れていたと安心していましたが、Ａ君は本当はもっと甘えたかったのだとこのとき初めて気付きました。これ以降もたまに「先生、好き好き～」と言ってくるＡ君です。

今後も、子供たちが安心して自分らしさを出せる温かい教師でありたいと思います。

１６　世界一幸せな教師

今年の夏は雨の日がとても多く、雑草の生育には好都合だったようだ。また、例年夏休みの後半に行っていたＰＴＡの奉仕作業も、新型コロナウイルス感染症の影響で延期になった。それで、子どもたちのひざほどの雑草が運動場にびっしりと生えたまま、２学期の始業式を迎えてしまった。

次の日、「せめて子どもたちが遊べるように、遊具の周りだけでもきれいにしよう」と、朝から草刈機を持ち出した。子どもたちが元気に遊ぶ姿を想像しながら、ブランコとジャングルジム、滑り台の周りの雑草を２時間ほどで刈り終えた。

その日の帰り道、私を見かけた低学年の子どもたちが口々に、「先生、草刈りありがとうございました」「おつかさまでした」と声をかけてくれた。思いがけなく子どもたちから感謝の言葉をもらって、目が潤むほど感激した。
数日後、掃除の時間に運動場の草取りをしていると、校舎の方から子どもの声が聞こえてきた。「せんせ～い、ごくろうさまで～す！ありがとうございます！」私も、「ありがとう！おかげで元気モリモリになったよ～」と手を振って応えた。心がほんわかして、草を引く手にもさらに力が入った。

先日、５年生の研究授業の準備のために体育館でたくさんの机を運んでいると、１年生が体育の授業にやってきた。ある女の子が「先生、何してるんですか？」と尋ねるので、多分意味はよく分からないと思ったが「研究授業の準備をしています」と答えた。するとその子は、「ふ～ん、ありがとうございます」と言った。どうしてその子が「ありがとう」と言ったのか、確かなことは分からないけれど、私が「誰かのために何かしている」ということを感じてお礼を言ったのかもしれない。

同じ日の昼休み、移動式黒板を「２階から１階にどうやって運ぼうか」と階段のところで立ち止まっていたとき、ちょうど通りがかった６年生の男の子が、「先生、手伝いましょうか？」と声をかけてくれた。心優しくたくましいその男の子のおかげで、無事に１階まで下ろすことができた。

本校の子どもたちは、人の心を元気にしてくれる本当に素敵な子どもたちだ。こんな子どもたちに囲まれて毎日を過ごせる自分は、日本一、いや世界一幸せな教師だと感じる。私から子どもたちへ、心から「ありがとう」と伝えたい。

１７　小さいけれど、大きな応援

二中駅伝部は、夏の炎天下の時から、ずっと運動場を走り続けてきました。
肌は真っ黒に焼け、吐く息が白くなってきた秋口の今になってもまだ抜けません。
「流した汗は嘘をつかない」「二中の誇りを背負って走る」
そのような思いで走り続けてきました。
しかし、順風満帆にはいかず、困難もありました。新型コロナウイルス感染症が拡大したときは、部の練習が大きく制限されました。練習したくてもできない葛藤と駅伝部は向き合わなければなりませんでした。
そのような時、部員は一人一人が自分で目標を決め、自分で孤独な練習を続けました。
努力の神様はそんな部員を見てくれていたのだと思います。
八代市の大会では男女共に優勝を成し遂げることができました。
当日走った生徒もそうでなかった生徒も、みんなで喜びを分かち合いました。
共に同じ道を走った仲間だからこそ味わうことができた感動でした。
校内放送で結果を報告すると、二中のみんなも歓声をあげて喜んでくれました。
駅伝部は二中の誇りです。
しかし、駅伝部の目指すところはその先にあります。
県中体連駅伝競走大会。
熊本県各地の代表が集まる大会で、自分たちの最高の走りができること。
それこそが目標です。
先日、駅伝本番の試走に向かうためにバスに乗るために駅伝部が校門前の駐車場に集合していました。
本番を見据えた試走を前に、駅伝部メンバーの誰もがこわばった顔をしていました。
笑顔の生徒は誰もいません。
そんな時、小さなお客様が二中を訪問してくれました。
太田郷幼稚園の子どもたちです。
バスに乗り込む、駅伝部の生徒に向けて「お兄さん。お姉さん。みんながんばってくださ～い」と大きな声で応援をしてくれました。
生徒のこわばった顔はほっこり笑顔に変わりました。
小さいけれど、大きな応援を受けて、駅伝部は一本の襷を繋ぎます。
二中の誇りを胸に。

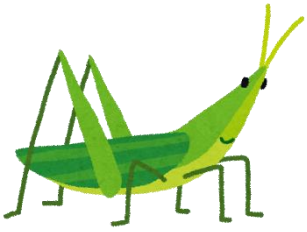
１８　『捕まえた虫を友達が逃がしてしまいました』

幼稚園で、子供たちが思い思いに遊んでいるときのことです。

突然、一人の年少児の「あ～ん！」という泣き声が聞こえました。声がする方へ目をやると、ほかの子供たちも「誰が泣いてる？」「Ｈ君だ！」と遊んでいる手を止めて動き出しました。

「どうしたの？」「だいじょうぶ？」とＨ君に声をかけ、泣き止むまで寄り添いなぐさめる年長児。捕まえた虫を友達が逃がしてしまったことを知ると、「探してくる」と虫を捕まえに行く子供、「虫がいたよ」と知らせる子供、虫網を持ってくる子供、「これに入れるといいよ」と虫かごを持ってくる子供・・・

虫を逃がしてしまった友達を責める子供は誰もおらず、Ｈ君のために自分たちができることをそれぞれに考え、見つけ行動する子供たちの姿に、なんて優しく思いやりが育っている子供たちだろうと心が温かく嬉しくなりました。



１９　なんと！！

水曜日、午前中に体育２時間。午後は、校区の探検に行くことになっていました。

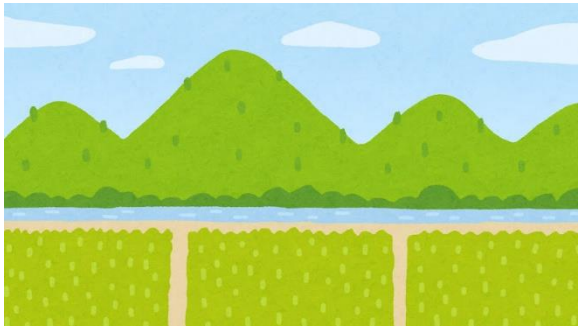
そこで、

Ｔ：今日の宿題はこれだけ。

と、いつもより少なめにしました。

Ｃ１：おっ！先生、太もも！

Ｃ２：それを言うなら太っ腹！



２０　長い月日の中で

この仕事に憧れ、希望を持ってスタートした日から３０年以上が経ちました。担任した全ての子供たちを覚えているかというと、自信はありません。

しかし、時折思い出しては、「どうしているかな？」と、気になる子供がいます。小学校、中学校、高校と成長するにつれて、壁があり、分かれ道があり、順調なときもそうでないときもあることを感じ取ってきました。直接行って励ますわけでもなく、電話をかけるわけでもない。少し離れたところから「あなたのこと、見ているよ」という思いです。

ある日、スーパーで、一人のお母さんに会いました。少し前にあったときは、息子さんの就職が決まったことを嬉しそうに話してくださったのに、今回は、私から目をそらされたことが分かりました。「何かあったんだ」とすぐに分かりましたが、無理に聞いてはいけないと思い、その売り場を移動しました。すると、別の売り場でも偶然会ってしまいました。卒業直前に事情があり、退学になったこと。就職もだめになったこと。しかし、同じ高校の夜間部に入学し直し、アルバイトをしながら頑張っていることを話してくださいました。とても辛かったことを話してくださったのに、私はなんと言っていいか分かりませんでした。「夜間部に入学し直すことが、どんなに強い気持ちが必要だったか。すごいことだと思います」と、伝えました。縁があったのか、アルバイトをしている彼と会ったり、妹さんと偶然会ったりと、何となく笑顔で話せることも増え、ゆったりとした時間が経ち、何年か経ったある日、「うちの子にはもったいないくらいのお嫁さんが来てくれて、子供も生まれました。赤ちゃんなのに一生懸命絵本を読んでやっているんですよ」
と、以前出会った同じスーパーで会ったとき、話してくださいました。「よかったですね。私も早くおばあちゃんになりたいな」と返しながら、お母さんの笑顔に感動しました。これまで、いろいろなことを乗り越えた分の重みがありました。出会えたその男の子に、お母さんに、ご家族に、「私が励ましてもらいました。ありがとう」という思いでいっぱいになりました。

２１　ねぇ

「ねぇ、お母さん、お仕事おつかれさま　はい栄養ドリンク」
「ねぇ、お母さん、マッサージしようか？」
「ねぇ、お母さん、ご飯何作ろうか？」
「ねぇ、お母さん、こっちの袋が重くないけん、交換しようか？」
「ねぇ、お母さん　そこで寝たらだめたい」
「ねぇ、お母さん」
「ねぇ、お母さん」

話し方は子どもでも、気付けば成長している息子。一緒に歩いていても子どもの方が背が高くて、たのもしくなっていく息子。

「お母さんが心配だけん、高校卒業したら働くけん、お母さんはゆっくりしとってね」と言ってくる息子。

息子のために、全力で生きようと決めた。

２２　猫ふんじゃった

休み時間、教室を歩いていて落ちた鉛筆を踏んでしまいました。

Ｔ：ごめ～ん。鉛筆、ふんじゃった～。

と、持ち主に謝っていると、どこからともなく

Ｃ：ねこ、ふんじゃった、ねこふんじゃったという歌声が聞こえてきました。

２３　初めての遠足

コロナ禍の中遠足がありましたが、学校のすぐ側の公園へ行くことになりました。息子にとってはとても楽しみの一日だった様子でした。その時の息子の様子を短歌に書きました。

「コロナ禍の遠足は近い公園へ　夢見る息子は笑みを浮かべて」
「近くても友達と行く遠足に　胸弾ませる７歳の息子」

２４　ほのぼの

２７日のお弁当作りご苦労さまでした。みんなおいしそうにうれしそうに、にこにこしながら食べていました！！担任とのやり取りの中で、思わず笑ってしまうこんなシーンがありました。

＋＋

子ども…「先生、ゼリーひとつあげるね。」

担任　…「ありがとう。大好物！うれしいな。」

子ども…にこにこして座る。

しばらくしてから、

「あっ先生コロナだけん、人にやらん方がいいかな？」

担任　…「大丈夫だよ。ありがとう。おいしくいただきます。」

子ども…「うん。」とにこにこして座る。

ゼリーを眺めながら、神妙な顔をして袋を持って、真面目な顔で担任に近づき、ゼリーの袋の後ろの高齢者や小さなお子さんの誤飲食に注意を指して、「先生食べるとあかんかも？」

担任　…「えっ？なんで？先生、おばあちゃん？」

子ども…ほうれい線を指さして、「ここに皺があるたい。」

担任　…「わー先生をおばあちゃんって、言ったなあ～。」

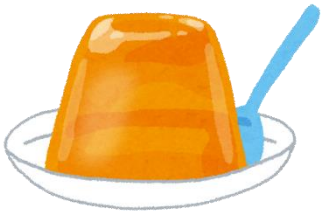
「大丈夫、おばあちゃんじゃないけん、いただきまーす。」

子ども…にこにこしながら席に着く！

＋＋

子どもは正直ですね。５０歳も違うのですもの明らかに祖母ですよねー。いつもは、マスクでほうれい線は隠しているし、気持ちは２４歳の若者のつもりですが・・・。

「デザート分けてくれてありがとう。」「高齢者を気遣ってくれてありがとう。」とほのぼのとした気持ちになりました。



２５　やさしさに包まれて

つい最近まで甘えん坊だった５歳の次女と、年々体調を崩すことが多くなってきた私…。そんな事を気づかってなのか、長女がわがままを言う中、困らせないようにと甘える事を我慢する次女。

夕食のカレー作りにりんごを一生懸命にすってお手伝い。

その翌日、前夜の洗い物が残っている事に、私を心配してか、「ママ、お茶碗洗える？」と聞くと、登園前にもかかわらず、小さな身体で大きな鍋と２日分の洗い物を、お洋服びっしょりになりながら全部洗ってくれました。

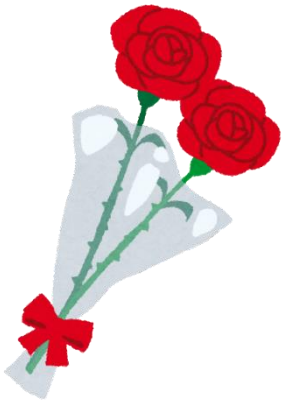
その夜、やっとのことでお風呂に入っていると、自分の頭を洗っていた手を止めて、「ママ、大丈夫？病院に行かなくていい？」と言いながら、私の肩に何度も何度も温かいお湯をかけてくれました。湯船につかりながらマッサージまでしてくれて、情けない気持ちとその優しさがとても嬉しく、心の底からこの子がいてよかったと思いました。

今まで大変な時期もあったけれど、自分なりに精一杯、子供たちと向き合ってきて、本当によかったなと思えた瞬間でした。

これからも、真っ直ぐなその優しさで沢山の人を大切にしてくれたらいいな…。

そして、あなたの幸せを心から願っています。

いつもいつもこんなママを支えてくれてありがとう♡



２６　「ユウヤ」のユウは優しいのユウ

息子がハイハイを始めてからというもの、海へ行ってはフグやカニやアメフラシを捕まえたり、川へ行ってはイモリやドジョウやエビを捕まえたりと、自然や生き物に親しんできた。

意思疎通がとれるようになると、それが飼う飼わないの騒動に発展したが、そんな時「ユウヤがパパやママと離れ離れになって、好きな物も食べられなくなったらどんな気持ち？」と考えさせた。すると暫くうつむいた後、大抵は逃がすことに同意してくれた。泣いては駄々をこねていた自分とは大違いだと頼もしく思いながらも、「『ユウヤ』のユウは優しいのユウなんだよ」と親の願いを伝えてきた。

そして今年は２０２１年、コロナ禍のゴールデンウィーク。人混みを避けてたどり着いた天草の外れにある海水浴場近くにテントを張った夜、独りで海を散歩していてタコを捕まえた。「きっとユウヤが驚くぞ！」といそいそとテントに戻ると、「何を捕まえたの！？」と息子が出てきた。得意顔でタコを見せると、「可哀想だから逃がしてきて～！」という息子。「ん～、でも、連れてくるために弱らせたから、逃がしても死んじゃうかも」と答えると、黙ってテントの中に戻ってしまった。タコと息子に心の中でごめんと言い、妻に一口かじられた後を頂いた。

そして９月の湯の児海水浴場。家族をほったらかして海に潜り、ようやく３０ｃｍ程のタイの仲間をヤスで刺した。刺身好きな息子の喜ぶ顔を思い浮かべながら浜に上がると、砂に穴を掘っていた息子が声を弾ませて「パパ、何捕ってきたの！？」と聞いてきた。ニヤリとしながら獲物を海中から引き上げてみせると、「死んでるの？」と不安そう。「まだ生きているけど、刺したから長くは生きられないよ」と言うと、少しの間の後、「じゃあ、今度見付けても捕って来ないでね！？」と釘を刺された。刺身は食べるのに、魚は捕ったらだめなんだ？と湧いた疑問は胸にしまって、「ユウヤは優しいね」と言うと、はにかんだ笑顔が答えた。「ユウって付けたからじゃない？」

親子で釣りする夢の一つと引き換えに、我が子の純粋さに心洗われ、温かい思い出をもらった６才の夏。

２７　予想外！虫とりブーム！！

保育園の時は全く虫に興味のなかった息子が、授業で虫とりをしてからすっかり虫ブームです。休み時間にいつも仲良しのお友達と虫とりを楽しんでいるようです。

コオロギがたくさんいるポイントを見つけた日には「明日はたくさんコオロギをたくさんつかまえてくる」と言い出し、有言実行で６匹もつかまえてきました。「なんで６匹もつかまえてきたの？」と聞くと「だって友達がたくさんいたほうが楽しいじゃん！」だそうです。なぜ６匹も・・・と思ったのですが、その理由を聞いて学校で息子本人もたくさんのお友達にかこまれて楽しく過ごしているのだなと思いました。

さて、これまで虫を飼ったことがなかったので飼い方がわかりません。どうお世話をするのかなと思ったら虫に詳しいお友達からえさはなすやきゅうりを食べることや、水分を与えないと死んでしまうので、虫かごを水でぬらした布やキッチンペーパーで水滴が残るくらいに拭いたらいいことを教わってきたようです。「Ｋくんはね、虫博士とばい！何でも知ってる！」と言いながらお世話しています。

学校の授業とお友達のおかげで親の予想もしない方向に興味を広げた息子です。これから６年生までどこまで彼の好奇心が伸びていくのかとても楽しみだなと思い、コオロギの大合唱を聞きながらこの文章を書いています。
（う～ん、でもコオロギの大合唱が絶えず耳の中に入ってくるのは少しきついものがありますネ…笑）

２８　「れいさんが元気に来てくれるだけでいいんで！」

今年度、同じクラスになったひかりさん（仮名）とれいさん（仮名）。今まで特に接点はなく、新たな学年が始まっても少し話をするくらいで、これといって、強いつながりがあるようには見えなかった。

１学期もずいぶんと経ち、７月に入った頃、れいさんが、豪雨災害のフラッシュバック等の影響で表情が次第に暗くなり、学校を休んだり、保健室登校をしたりするようになった。まるまる１週間教室には入れない状況が続き、クラスの子たちからも心配の声があがるようになった。

そんなある日、その日も保健室に登校し、私と他愛もない話をしているときに、突然ドアがノックされ、「失礼します！」と、ひかりさんとクラスの子数名がれいさんの顔を見に来てくれました。挨拶と少しの会話をしてもどっていきました。

そして、その日の昼休み時間には、今度はひかりさんとさっきとは違う子たちが会いに来てくれました。ひかりさんは、「一緒に行こう？」などプレッシャーになるようなことは言わず、れいさんのそばにずっといるだけでした。

その次の日には、れいさんと昨年度同じクラスで仲がよかった子を連れてひかりさんがやってきました。その次の時間も、昼休みの時間も…。だんだんと分かってきたことですが、ひかりさんが自発的にいろいろな人に声をかけて、れいさんに会いに来てくれていたのです。

次第にれいさんは、１時間、２時間と教室に入ることができるようになり、１学期の残りの期間、そして２学期も１日も休むことなく元気に登校してきています。それ以来、２人はさらに仲が良くなり、２人で楽しそうに話したり、笑い合ったりしています。

ひかりさんが、いろいろな子を連れてきてくれているとわかり、私が「ありがとう、とっても素晴らしいことだから、お家の人とかに伝えてもいいかな」と聞くと、「大丈夫です。私がしたくてしたことなので、私もれいさんの気持ちが分かったし、れいさんが元気に来てくれるだけでいいんで！」と答えました。

きっとこれからも、わかり合える友人として一緒に歩んでいくことでしょう。

２９　わくわくドキドキの運動会

　コロナの中、開催されるか不安の中、子供たちは毎日練習にはげみ、疲れて帰ってくることもあり、まっくろに日焼けしてがんばっているんだなぁと感心しました。

　運動会前日に「何が楽しみ？」と聞いてみると自慢げに「ラジオ体操！」と答えました。意外な答えに親は大笑いでした。

　運動会当日はよく晴れ、我が家のやんちゃ坊主君は、照れながらも一生懸命に走り、踊り、応援していました。その中でも「ラジオ体操」は自信に満ちあふれていました。親からすれば競技が楽しみですが、子供からすれば運動会すべてを見てほしい。開会式から閉会式までが運動会だと感じました。

　コロナ禍で先生方、子供たち、保護者、みんなで作った運動会だなと思いました。

３０　私の宝物

　小学二年生の娘が、「今日のＺｏｏｍは宝物を見せるんだって！」と、にこにこしながら帰ってきました。

　画面に映るクラスメイトは皆、学校に持っていけないようなゲーム機やぬいぐるみなどを次々に紹介していました。娘は、下の２才の弟を隣に呼び、「私の宝物は弟です。」と皆に紹介しました。他にも紹介したい物がある中、選ばれた弟は嬉しそうで･･･。

　大きくなったら本人たちに聞かせてあげたいと思ったエピソードでした。

３１　私の宝物

私は今年度、教諭として採用され、〇年生を担任しています。学級にはいろいろな子供がいます。運動が得意な子、勉強が得意な子、遊びのリーダーになる子、掃除などの仕事を一生懸命頑張る子など様々です。しかし、中には、友だちとの関係に悩む子、忘れ物をする子、授業中の発言が少ない子などもいます。私は、子供たちのもっている力を最大限に伸ばすために日々頑張っていますが、なかなか思うようにはなりません。

私は日々の活動の中で楽しみにしている時間があります。それは昼休みに子供たちと遊ぶことです。一緒にシーソーやブランコで遊ぶことがあります。

遊んでいる途中で掃除の時間を知らせるチャイムが鳴ったため、子供たちと走って校舎に向かいました。そのとき、〇〇さんは最高の笑顔で「先生、また、遊ぼう」と言いました。その翌週もサッカーをして遊びました。その日も「来週の月曜日、また遊ぼう」と声をかけてくれました。そのときの笑顔はたまらなく最高で、宝物と感じました。

現在の私は、子供たちのできていない部分に目を向けてばかりで、どこかで現在の自分を変えなければと感じていました。そんなときに子供たちの笑顔にふれて気付いたのは、子供たちの笑顔は宝物であり、子供たち一人一人にその子がもっている良さがあるということです。その良さを認め、ほめ、励ましながら、子供の笑顔が見られる場面をたくさんつくり出したいと思いました。それを一人一人の成長につなげ、私も一人の教師として子供たちと一緒に成長していきたいと願って、日々頑張っていきます。